

※本文中の()内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

◎増減が目立った大学

□学部新設や新入試方式拡大で目立つ増加

4月12日現在、一般選抜の志願者数が確定した大学で、志願者数の増加数、減少数がそれぞれ3,000人以上の大学についてみていきます。

増加した大学では、増加数が最も多かったのは東洋大の15,801人(118)、次いで関西学院大の8,887人(120)、中部大の7,641人(158)、専修大の6,371人(114)、大東文化大の5,727人(134)で、5,000人以上の増加は5大学です。3,000人以上の増加まで含めると14大学で、前年度最終の11大学から3大学増加しました。

東洋大は学部・学科改組とキャンパスの移転、各学部での入試方式変更や入試日増設が影響し、15,801人の大幅増で、志願者数は4年ぶりに10万人を上回りました。関西学院大は<一般・学部個別>の複線化、併願減額制度の導入、共通テスト利用方式の出願期間の延長といった入試方式の変更で大幅増加となりました。中部大は4年連続減少の反動で7,641人の大幅増で、志願者数は2万人を上回りました。併願減額制度を導入したこともあり、8学部全てが大幅増加しました。専修大は6,371人の増加で5年ぶりに増加になりました。一般方式は大幅増で、特に実施日程を1日増やした<スカシップ>は1,417人の激増となりました。大東文化大は5,727人の大幅増で6年ぶりに増加となりました。一般方式は大幅減少で4年連続減少ですが、共通テスト利用方式は7,650人の激増で6年ぶりに増加し、志願者数は14,000人を上回りました。大阪産業大(146)は併願減額制度を公募推薦入試まで拡大したことが影響しました。立命館大(105)はやや増で3年連続増加しました。広島修道大(155)は4年連続減少の反動と、新しい入試方式の導入や、入学検定料の割引制度の導入で増加しました。名城大(110)は新しい入試方式の導入や、入学検定料の割引制度の導入で増加しました。武蔵野大(112)は学部の新設、<共テ併用・全学部統一>の新規導入などで増加しました。青山学院大(107)は一部の募集単位で<共テ併用>から一般方式へ変更した影響でやや増加しました。法政大(103)はやや増で志願者数は2年ぶりに10万人を上回りました。成蹊大(117)は大幅増で、5学部中4学部が増加し、全学部前年度と逆の増減でした。上智大(111)は前年度の大幅増に引き続き増で、<共テ利用(3教科型)>は科目負担が軽いことで人気を集めました。

減少した大学では、減少数が最も多かったのは日本大の22,667人(77)、次いで京都産業大の7,805人(80)、近畿大の5,364人(96)、関西大の5,170人(93)で、3,000人以上の減少まで含めると6大学となり前年度最終の12大学から6大学減少しました。

日本大は大学を取り巻く厳しい環境で22,667人の大幅減少で、志願者数は8万人を下回りました。京都産業大は京都市内の鉄道ターミナルから離れたキャンパスのロケーションも影響し、7,805人の大幅減少でした。近畿大は5,364人の減少ですが、志願者数は146,827人で11年連続全国最多となりそうです。なお、志願者数が15万人を下回るのは3年ぶりです。関西大は5,170人のやや減少で5年連続減少となりました。大阪経済法科大(60)は2022年度入試で、創立50周年事業の一環として入学検定料を一律1万円としたことで倍増以上となりましたが、今年度入試で一律2万円に戻したことで大幅減少となりました。九州産業大(82)は大幅減少で2年連続減少となりました。

なお、近年は入試日程や方式の追加、併願時の入学検定料の割引などで受験生の利便を図ることによって志願者数を増加させている大学がある一方で、逆に歩留まり率を正確に把握するために併願パターンの制限や入学検定料の割引の見直しを行う大学もあることから、単純に志願者数の延べ人数だけで、大学の人気を測れないことにも十分に留意してほしいと思います。

〔3,000 人以上増加した大学〕

大学	志願者数増減		志願者数		コメント
	増減数	指数	2024 年度	2023 年度	
東洋大	+15,801	118	102,895	87,094	大学全体では、学部・学科改組とキャンパス移転、各学部での入試方式変更や入試日増設が影響し、15,801 人(118)の大幅増加で、志願者数は4年ぶりに10万人を上回り、全国4位の志願者数だった。
関西学院大	+8,887	120	52,624	43,737	大学全体では、8,887 人(120)の大幅増加で4年連続増加。志願者数は5万人を上回った。＜一般・学部個別＞の複線化、併願減額制度導入、共通テスト利用方式の出願期間の延長といった入試変更が影響した。
中部大	+7,641	158	20,884	13,243	大学全体では、4年連続減少の反動で7,641 人(158)の大幅増加。志願者数は2万人を上回った。併願減額制度を導入したこともあり、8学部全てが大幅増加。
専修大	+6,371	114	51,289	44,918	大学全体では、6,371 人(114)の増加で5年ぶりに増加に転じた。一般方式は(116)の大幅増加。実施日程を1日増やした<スカラシップ>は1,417 人(164)の激増。共通テスト利用方式は(111)の増加。
大東文化大	+5,727	134	22,803	17,076	大学全体では、5,727 人(134)の大幅増加で6年ぶりに増加に転じた。一般方式は(81)の大幅減少で4年連続減少だが、共通テスト利用方式は(211)の激増で6年ぶりに増加し、志願者数は14,000 人を上回った。
大阪産業大	+4,740	146	15,009	10,269	大学全体では、4,740 人(146)の大幅増加で3年ぶりに増加に転じた。一般方式は(158)の大幅増加で、志願者数は10,000 人を上回った。共通テスト利用方式は(124)の大幅増加。併願減額制度を公募推薦入試まで拡大したことが影響。
立命館大	+4,397	105	95,779	91,382	大学全体では、4,397 人(105)のやや増加で3年連続増加。方式別では、一般方式は1,225 人(102)の微増で2年連続前年度並、共通テスト利用方式は3,172 人(110)の3年連続増加。
広島修道大	+4,176	155	11,775	7,599	大学全体では、4,176 人(155)の大幅増加で5年ぶりに増加。方式別では、一般方式は2学科併願制の新規導入や入学検定料のセット割引の導入で3,611 人(180)の激増、共通テスト利用方式は565 人(118)の大幅増加。
名城大	+3,930	110	42,649	38,719	大学全体では、3,930 人(110)の増加。方式別では、一般方式は＜一般・K方式＞の新規導入学部や、入学検定料の割引制度の導入で5,003 人(122)の大幅増加、共通テスト利用方式は1,073 人(93)のやや減少。
武蔵野大	+3,527	112	33,841	30,314	大学全体では、学部新設もあり3,527 人(112)の増加。方式別では、一般方式は508 人(103)のやや増加、共通テスト利用方式は＜共用併用・全学部統一＞の新規導入などで3,019 人(121)の大幅増加。
青山学院大	+3,161	107	47,109	43,948	大学全体では、3,161 人(107)のやや増加で2年ぶりに増加。一般方式は3,218 人(115)の大幅増加。＜全学部＞(109)は2年ぶりに増加、＜学部個別＞(120)は社会情報と理工で一部の募集単位が＜共用併用＞から一般方式への変更の影響で大幅増加。共通テスト利用方式は57 人(100)の微減で前年度並。
法政大	+3,118	103	102,169	99,051	大学全体では、3,118 人(103)のやや増加、志願者数は102,169 人で2年ぶりに10万人を上回った。方式別では、一般方式は1,705 人(102)の微増で前年度並、共通テスト利用方式は1,413 人(105)のやや増加。
成蹊大	+3,046	117	21,481	18,435	大学全体では、3,046 人(117)の大幅増加。学部別では5学部中4学部が増加で、法(132)、文(123)、経営(123)は大幅増加。方式別では、一般方式は1,159 人(110)の増加、共通テスト利用方式は1,887 人(127)の大幅増加。
上智大	+3,017	111	29,569	26,552	大学全体では、前年度の大幅増加に引き続き3,017 人(111)の増加で2年連続増加。一般方式は51 人(101)の微増で前年度並。共通テスト利用方式は2,966 人(114)の増加。実施2年目の＜共用(3教科型)＞は科目負担が軽いことで人気を集め、1,503 人(126)の大幅増加。

〔3,000 人以上減少した大学〕

大学	志願者数増減		志願者数		コメント
	増減数	指数	2024 年度	2023 年度	
日本大	-22,667	77	75,839	98,506	大学全体では、大学を取り巻く厳しい環境で 22,667 人(77)の大幅減少。志願者数は 8 万人を下回った。方式別では、一般方式(81)、共通テスト利用方式(66)といずれも大幅減少。
京都産業大	-7,805	80	30,470	38,275	大学全体では、7,805 人(80)の大幅減少。京都市内の鉄道ターミナルから離れたキャンパスのロケーションも影響。一般方式は 3,713 人(85)の大幅減少で 4 年連続減少。共通テスト利用方式は 4,092 人(69)の大幅減少、志願者数は 9 年ぶりに 9,000 人台となった。
近畿大	-5,364	96	146,827	152,191	大学全体では、5,364 人(96)のやや減少だが、志願者数は 146,827 人で 11 年連続全国最多。なお、志願者数が 15 万人を下回るのは 3 年ぶり。一般方式は 4,883 人(96)のやや減少だが、志願者数は 3 年連続で 10 万人を上回った。共通テスト利用方式は 481 人(99)の微減で前年度並。志願者数は 2 年連続で 4 万人を下回った。
関西大	-5,170	93	72,529	77,699	大学全体では 5,170 人(93)のやや減少で 5 年連続減少。一般方式は 3,274 人(94)のやや減少。共通テスト利用方式は 1,896 人(92)の減少。
大阪経済法科大	-4,348	60	6,465	10,813	大学全体では 4,348 人(60)の大幅減少で 2 年連続減少。2022 年度入試で創立 50 周年事業の一環として入学検定料を一律 1 万円としたことで倍増以上だったが、今年度入試で一律 2 万円に戻したことで大幅減少。
九州産業大	-3,095	82	14,024	17,119	大学全体では 3,095 人(82)の大幅減少で 2 年連続減少。方式別では、一般方式は 2,207 人(83)の大幅減少、共通テスト利用方式は 1,068 人(79)も大幅減少でいずれも 2 年連続減少。